

## 麻酔中の徐脈に一時ペースメーカーで 循環動態維持をした犬の1例

砂原 央<sup>1)†</sup> 山路史弥<sup>1)</sup> 根本有希<sup>1)</sup> 板本和仁<sup>2)</sup> 伊藤晴倫<sup>2)</sup>  
板本拓也<sup>2)</sup> 中市統三<sup>3)</sup> 谷 健二<sup>1)</sup>

- 1) 山口大学共同獣医学部獣医外科学分野 (〒753-8511 山口市吉田 1677-1)
- 2) 山口大学共同獣医学部動物医療センター (〒753-8511 山口市吉田 1677-1)
- 3) 山口大学共同獣医学部獣医放射線学分野 (〒753-8511 山口市吉田 1677-1)

(2023年4月6日受付・2023年9月27日受理・2023年12月22日公開)



本文はこちら  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/12/76\\_e336/\\_article/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/12/76_e336/_article/-char/ja)

### 要 約

麻酔中に心停止の既往歴がある症例に検査麻酔を行ったところ徐脈が生じ、アトロピンとイソプロテレノールを使用したが、心拍数は安定しなかった。本症例は外耳道切除の必要があり、手術中に徐脈と低血圧といった血行動態の不安定が認められる可能性が考えられ、一時ペースメーカーを使用し、心拍数を維持し血行動態を安定させることを試みた。麻酔導入後に右室に一時ペースメーカーを設置することで心拍数を80～110回/分に維持可能となり、ドパミンを併用することで麻酔中の観血的血圧は安定した。術中と術後に一時ペースメーカーによる合併症は認められなかった。そのため、麻酔中に薬剤で安定しない心停止や徐脈による低血圧の既往歴がある症例に長時間の麻酔をかける場合、一時ペースメーカーの使用は心拍数と血行動態を安定させるため有用と考えられた。

——キーワード：徐脈，血行動態維持，一時ペースメーカー。

----- 日獣会誌 76, e336～e340 (2023)